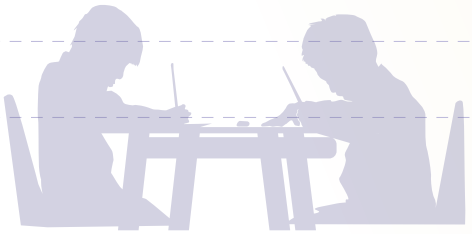
特集 「小5 統一合判」中学入試レポート vol. 2

私学が育てる人間力！

進学実績や学習指導だけじゃない、私立中高一貫校の多様な活躍と成果

夏休みも終わり、迎えた小5第２回「統一合判」テスト。大勢の仲間が集まって力を競う、こうした会場テストの雰囲気や形式に、はじめて触れた受験生も多かったことでしょう。２０１８年２月の入試本番までは、まだ１年半近くありますが、気を抜くことなく、じっくりと「骨太」の学力を養成することで、受験勉強が本格化する６年生に向けて、はずみをつけてください。

今回の入試レポートでは、今後の学校選びのためのひとつの視点として、進学実績や学習指導以外の「私立中高一貫校の多様な活躍と成果」を紹介。また、この夏に行われたリオデジャネイロ・オリンピックや国内の各大会で活躍した私立中高一貫生のさまざまな活躍をお伝えします。



首都圏模試センター

私立中高一貫校が多くの親子から指示を集める理由とは！？

日本の義務教育では、無試験、無学費で近隣の中学校に通えるにもかかわらず、なぜ多くの小学生親子が、きびしい中学受験を乗り越え、私立中高一貫校への進学を選択するのでしょうか。「難関大学への進学実績が良い」からでしょうか。熱意にあふれた先生が多いことや恵まれた環境・施設を備えていることも魅力的です。

しかし、何よりも私立中高一貫校では、創立者が掲げた理想の教育（＝独自の教育理念）のもとに、その考えに賛同した家庭の子女が集うことで形成された、その学校独自の風土があります。そこで展開される「自由で、柔軟な教育の展開」こそ、いまなお多くの小学生親子を魅了し続ける理由であり、そのうえで、それぞれが個性的な教育プログラムを工夫し、新たな時代に求められる力を育ててくれるのが、私立中高一貫校の教育なのです。

１２歳から１８歳の６年間は、人生のうちでも最も多感で大切な時期。人間性の基礎はこの６年間で形成されます。この中高６年間のなかで、学力的にも人間的にも大きく成長するためには、何より「中学１～２年の間が大事」と言われています。

この中高生活のスタートラインにあたる「基礎期」に、わが子がより良い教育環境で学校生活に馴染み、伸び伸びと自主的に学びながら、友だちや先生と一緒に健やかな学校生活を送ることができれば、その時期に身につけた基礎力や生活習慣が、その後の中学３年～高校１年の「充実期」や高校２年～３年の「発展期」に大きく成長するための確かなベースになります。

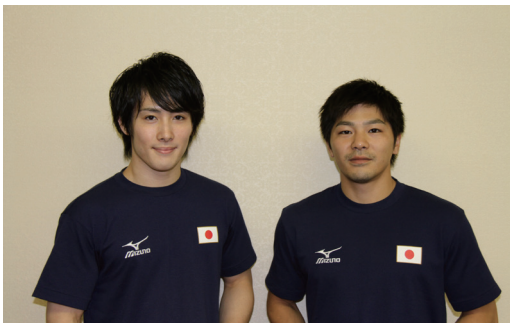
この大切な時期に高校受験で分断されることなく、一貫した考えのもとで個々の生徒を見守り、育ててくれるのが私立中高一貫校。じっくりと自分と向き合い、将来の進路を含めた“生き方”を考えるための時間的ゆとりも生まれます。

まさに、こうした一貫性、持続性を持つ教育環境ならではの利点こそ、多くの小学生の保護者があえてわが子の進路に私立中高一貫校を選ぶ最大の理由なのです。

この数年の間に、全国各地に公立の中高一貫校が続々と誕生していますが、それらの設立も、私立中高一貫校がこれまでに実現してきた成果や教育実践の事例を見本に、その良さや利点を公立学校でも生かそうと試みていることに他ならないのです。

私立中高一貫校の大学進学実績の良さは、各私学がめざす「全人教育」の副産物

私立中高一貫校や中学受験の話題がマスコミ等で取り上げられるときには、先にも述べたような「大学進学実績の良さ」に焦点をあてたも



リオ五輪で体操代表に選出された加藤凌平選手と山室光史選手は埼玉栄の出身。同校ではこの夏に新校舎も完成。文武の両面から生徒たちをバックアップします。

のが目立ちます。実際、2016年の「東京大学合格者ランキング」を見ると、３５年連続首位の●開成を筆頭に、その上位を私立中高一貫校が独占しているのがわかります。

このことは、多くの小学生親子や、世間の多くの人々に広く知られている事実で、公立学校と比べたときに、そのことが私学にとって、ひとつの大きなアドバンテージとなっていることは間違いありません。

しかし、中学受験に長く関わり、多くの私学を取材してきた私たちが実感しているのは、私立中高一貫校の“６年間一貫教育”の成果は、決してそれだけではないということです。

これまでも、私たちは私立中高一貫校の大学進学実績が良いのは、①それぞれ独自の理念と教育方針を持つ私学の、②中高の一貫した教育環境で、③大学への進学をも見通すことのできる教育が、④有機的に再編されたカリキュラム等を工夫し、⑤６年間の継続性・連続性を活かす指導を、⑥入学してきた生徒と保護者の理解と賛同を得て、⑦生徒と教員、保護者の一体感と協力体制のもとで実現することのできる、⑧大学への受験・進学と学問のための基礎作りを両立させた、⑨バランスのとれた人間教育（全人教育）の副産物としての成果である、……と理解してきました。

いずれにしても、私立中高一貫校の大学進学実績が、大半の公立高校と比べて格段に優れていることは広く知られていますが、じつはこうした成果につながる中高６年間一貫教育のノウハウを私学に学び、公立学校を選択したい生徒たちにも提供するために設置されたのが、現在までに全国に設置され、近年大きな注目を集めている公立中高一貫校なのです。

もちろん大学への進学状況（実績や進路指導スタイル）や６年間の学習指導が、学校選択のうえで大きな比重を占めていることは否定しません。しかしこれからわが子の進路を考えていく保護者の皆さんには、それ以外の「幅広い私学の成果」にもぜひ目を向けていただきたいのです。

そうすることによって、「進学実績や学習指導

激戦区の西東京を制して、甲子園初出場を決めた八王子学園八王子。２０１６年には東大・医進クラスを開設するなど、学習面での改革も急ピッチに進んでいます。

だけではない」私立中高一貫校の（生徒たちの）多様な活躍や成果が、大学進学実績以上の魅力をもって感じられることでしょう。

継続した中高6年間の時間的余裕が、私立中高一貫校の大きな魅力

私立中高一貫校では、「高校受験がない」ことによる時間的余裕と中高の継続性を活かして、教科の学習だけではなく、「行事や課外活動、好きなことや部活動などに思い切り打ち込める」ことも大きな魅力のひとつといわれています。

人生のうちで最も多感で成長著しい、12歳から18歳の6年間。人間性の基礎は、この6年間で形づくられる部分がとても大きいのです。

この大切な時期に、高校受験で分断されることなく、一貫した考えのもとで個々の生徒を見守り、育ててくれる私立中高一貫校では、生徒自身がじっくりと自分と向き合い、将来の進路を含めた自分自身の生き方を考えるための気持ちの余裕も生まれます。

そうした時期に自らの意思で好きなことに打ち込むことで、生徒は自尊感情や目的意識、学校生活へのモチベーションを高めることができ、同時にこれらの活動を通じて、他者への理解や協調・協働する力を身につけていくことができるのです。

一方の教科学習においても、大学受験に必要な教科（英・数・国・社・理）だけではなく、美術や音楽、技術、体育、家庭科などの教科を通じて、豊かな情操や感性を育てることができます。

とくに私学のなかでも昔から人気の高い伝統校では、主要5教科の学習以上に、こうした側面（美術、音楽、技術、体育、家庭科など）で充実した授業や課外活動、発表の場を多数設けています。

「クエストカップ2016全国大会」において「宣誓」を行った横浜富士見丘学園。私立中高一貫校では日頃の成果を表現できる機会が豊富に用意されています。

また教科学習の枠組みにとどまらず、平和教育、環境教育、異文化理解教育など、今後の社会でますます必要になってくる知識や理解を深める機会も、私立中高一貫校の多くが積極的に取り組んでいます。

こうしたさまざまな側面における幅広い教育や活動を総合的、有機的に結びつけることで、初めて私学の中高6年間一貫教育が形成されているのです。

そして、すでに多くの私立中高一貫校で実践・実現されてきた、これらの「総合的、有機的な」学習や活動、体験の機会を通して育むことのできるものこそ「2020年大学入試改革」に十分に対応できる力であり、中高～大学を卒業して社会に出たときに必要とされる、総合的な学力と人間力（共生・協働・協調できる力とコミュニケーション力）でもあるのです。

また中高の6年間の継続性と時間的なゆとりを活かして、身の回りのもの（自然や社会の出来事）を観察し、先生や仲間とさまざまなテーマで話し合い、自らの頭でじっくりと考え、それを人に伝える力を育むことができるのも「中高6年間一貫教育」の最大の利点といえるでしょう。

そして、いま教育現場への課題とされる「アクティブラーニング」や「学び合い」の授業、オー

ルイングリッシュによる英語以外の教科の授業（イマージョン教育）なども、まだ頭と感性の柔軟な中学1年生から慣れ親しむことで、子どもたちにとっては、より吸収・消化しやすいものになることは、いうまでもありません。

リオ五輪をはじめ、この夏に私立中高一貫校が見せてくれた、スポーツの成果！

中高一貫校の時間的なゆとりは、部活動や学校行事においても活かされていることは先にも述べましたが、今年も、多くの大会やイベントでその成果を見せてくれました。

特に今夏は4年に1度のオリンピックイヤー。母国の期待を一身に集め、日本代表の選手たちが、連日連夜、熱い戦いを届けてくれました。

このリオ五輪の代表に、現在も首都圏の私立中高一貫校に通う生徒や、多くの卒業生がいることをご存知でしょうか。

「水泳」では競泳男子400m個人メドレーでダブル表彰台を実現した萩野公介選手（◎作新学院）と瀬戸大也選手（◎埼玉栄）は共に私立中高一貫校の出身。特に埼玉栄はウエイトリフティング女子48kg級で２大会連続のメダルを獲得した三宅宏実選手、そして体操男子団体で３大会ぶりに金メダルを獲得した加藤凌平選手と山室光史選手など、7人もの卒業生が日本代表に選ばれ、大活躍しました。

また競泳では7種目にエントリーした池江璃花子選手は◎淑徳巣鴨に通う現役の高校生としても注目を集めました。

メダルラッシュに湧いた「柔道」にも私立中高一貫の出身者が多く、首都圏に限っても８人の選手が代表に選ばれています。柔道男子90kg級で金メダルを獲得したベイカー茉秋選手は◎東海大付属浦安、同じく73kg級で優勝した大野将平選手は●世田谷学園の卒業生です。

他にも多くの選手たちが私立中高一貫校を経て代表に選ばれていますので、後半のコラムをぜひ参考にしてください。

一方の国内では、高校生たちによるスポーツの祭典「平成28年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）＝中国総体2016」がこの夏に開催されました。男子バレーボールでは、昨年の悔しさ（準優勝）をバネに優勝した◎駿台学園をはじめ、私立中高一貫校の生徒たちが、例年以上の成果を見せてくれました。この中から、４年後の東京オリンピックで注目される選手が現れるかもしれません。

他にも進学校として知られる有名私学が、数多く活躍しているので、興味のある方は同大会のWebサイトをぜひご覧になってください。

インターハイ同様、毎年多くの感動を与えてくれる夏の風物詩「98回高校野球選手権大会（2016 夏の甲子園）では、今年も熱い戦いが繰り広げられました。首都圏の私立中高一貫校では◎八王子学園八王子（西東京代表）、●横浜（神奈川代表）、◎常総学院（茨城代表）、◎作新学院（栃木代表）が出場。なかでも八王子学園八王子は八王子市所在の学校としては初めての甲子園出場を決め、2017年に市制100周年を迎える地元八王子市ではたいへんな盛り上がりをみせました。

この夏の私立中高一貫校の活躍はWebサイトでも確認できます。

中学校のスポーツ界でも、先にも述べた「高校受験がない」利点を武器に、各種の全国中学校選手権大会や都道府県の予選大会で、私立中高一貫校が活躍を見せています。

もちろん公立中学校でもがんばっているチームはたくさんありますが、高校受験のための準備に時間を取られることなく、中学3年の夏の大会まで、好きなことに打ち込める意義とアドバンテージは、非常に大きいといえるでしょう。

他にも、サッカー、テニス、ソフトテニス、ラグビー、バスケットボール、バレーボール、卓球、バドミントン、ダンス、柔道、剣道、空手、少林寺拳法、水泳、水球、体操など、さまざまなカテゴリーで私立中高一貫校が多彩な活躍を見せています。

関心のある方はぜひ各種目（競技）のWebサイトで調べてみてください。そのことがお子さんにとっても、受験に対する目標や励みになるはずです。

文化部も負けていない！ 私立中高一貫校の多様な成果

私立中高一貫校の部活動の活躍は、運動部だけではありません。むしろ体格や運動能力で差がつくことが少なく、多くの私学で中学生と高校生が合同で活動する文化部のほうが、全国的な活躍が目立つという見方もできます。

「文化部のインターハイ」と呼ばれる「全国高等学校総合文化祭」はこの夏で40回目（2016ひろしま総文）。文化部の生徒たちにとっては日頃の練習や研究の成果を発表する絶好の機会となっています。

「写真部門」では◎埼玉栄が優秀賞を受賞。また「書道部門」では●佼成学園女子が奨励賞を受賞しました。

今年の「全国高等学校総合文化祭」（2016ひろしま総文）は7月30日～8月3日までの5日間の開催！運動部にも負けない熱い戦いが繰り広げられました。

後半戦の注目は「囲碁･将棋部門」。「囲碁部門」の女子個人戦では◎開智の２年生の生徒が準優勝に輝きました。「将棋部門」では男子個人で●聖光学院の1年生が初出場で初優勝。男子団体では野球の強豪校としても知られる●横浜が男子団体戦で準優勝を成し遂げました。さらに女子団体戦では埼玉の◎西武学園文理が見事優勝を果たすなど、首都圏私立中高一貫校の活躍が目立ちました。

「畳の上の格闘技」と言われる「小倉百人一首かるた部門」の競技の部では●暁星（２人）、◎安田学園、●晃華学園、●海城を擁する東京選抜チームが最優秀賞を受賞。暁星にいたっては７月の下旬に行われた「第38回全国高校小倉百人一首かるた選手権大会」でも9年連続11回目の優勝を達成しており、いまや絶対王者の地位を確立しています。

同じくこの夏に行われた合唱の「第82回ＮＨＫ全国学校音楽コンクール東京都コンクール本選」の中学の部では、●豊島岡女子学園と●大妻中野が金賞に輝き、◎国立音楽大附が銀賞、●桐朋女子が銅賞を受賞しました。

「第９回書道パフォーマンス甲子園」（全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会）では●佼成学園女子と◎創価が本戦出場権を獲得。惜しくも上位入賞はなりませんでしたが、高校生らしい活気あふれるパフォーマンスをみせてく

れました。

８月上旬に行われた「第20回全国・中学・高校ディベート選手権」（ディベート甲子園）の高校の部では●鎌倉学園が準優勝。一方の中学の部では◎創価が前述の書道パフォーマンス甲子園の活躍に続き準優勝。高校の部でも第３位に入るなど、多方面での活躍が目立ちました。

他にも、吹奏楽、管弦楽、マーチングバンド、美術、漫画、生物、化学、物理、放送、ラジオ、鉄道研究、コンピュータなど、さまざまな文化部で、私立中高一貫校が全国レベルの活躍を見せています。

つまり、運動部・文化部に関わらず誰もが自分の好きな部活や種目に打ち込むことができ、しかも高いレベルでの活躍や成果を出すことができることも私立中高一貫校の大きな特色なのです。

こうした継続的な６年間の部活動を行うことのできる環境と熱心な顧問の先生（専任教員なら転勤することはない）や指導者（ＯＢのつながりや支援力も強い）の存在。それが長くても10年毎に転勤を余儀なくされる公立中学・高校と私立中高一貫校の大きな違いでもあるのです。

学校の枠や国境を超えた大会や催しでも、私立中高一貫校の生徒が大活躍！

スポーツの中体連、高体連、文化部における各種団体が主催する中高の大会や発表会だけではなく、学校の枠や国境を超えた大会や発表会、コンクールなどで、私立中高一貫校の生徒が多彩な活躍を見せています。

実在の企業や人物を題材に「答えのない課題」に取り組み、プレゼンテーションする「クエストカップ」。近年ではPBL型授業（問題解決型授業）を取り入れる私学が増えていますが、その学習成果を試す絶好の場として、参加校が増加しています。昨年は●聖学院が「企業プレゼンテーション部門」でグランプリを受賞。2016年大会では初出場の●横浜富士見丘学園が開会式での総合司会の大役を務め、同部門で優秀賞を獲得しました。

世界の高校生が国連会議を模して国際問題を討議する「模擬国連」にチャレンジする私立中高一貫校も年々増加しています。５月に行われた「高校模擬国連国際大会」では●麻布が優秀賞を受賞しています。

この夏の開かれた「第57回国際数学オリンピック香港大会」では●開成の代表2人がそれぞれ金メダル、銅メダルを獲得しました。

また日本機械学会が主催する「ロボットグランプリ」では、大学生や社会人が混ざるなか、●瀧野川女子が大道芸競技コンピュータ制御部門において準優勝。東京工学院専門学校Webクリエーター科が開催した「第３回ＬＩＮＥクリエイターズスタンプコンテスト」では◎日出学園がグランプリに輝くなど、私立中高一貫校が先進的に取り組む「ICT教育」の成果が反映された形となりました。

こうした活動は、ほんの一例であり、他にも私立中高一貫校の活躍は多岐に渡ります。

中高６年間のゆとりを最大限に活かし、自分たちの活動や作品のレベルを高めるための努力を惜しまない姿勢とその過程で育まれるさまざまな力の育成。これこそが私立中校一貫校がめざす教育の本質であり、今回ご紹介した活動の成果はあくまで「プラスアルファ」（副産物）にすぎません。

受験勉強が本格化する小５の今だからこそ、私立中高一貫校に我が子を通わせる意義を考え、進学実績や学習指導以外の魅力にも目を向けてみてください。

2016年リオ五輪に出場した首都圏私立中高一貫校出身の選手たち

[バスケットボール女子]
間宮佑圭：◎東京成徳大（東京）
吉田亜沙美：◎東京成徳大（東京）

[７人制ラグビー男子]
豊島翔平：◎東海大付属相模（神奈川）

[７人制ラグビー女子]
谷口令子：●北鎌倉女子学園（神奈川）
冨田真紀子：●跡見学園（東京）
横尾千里：◎国学院久我山（東京）

[水球男子]
志水祐介：◎埼玉栄（埼玉）
棚村克行：●明治大学付属中野（東京）

[ヨット(セーリング)]
女子４７０級(ペア)
吉田愛：◎国立音楽大学附属（東京）
女子レーザーラジアル級
土居愛実：◎山手学院（神奈川）

[水泳]
競泳女子200mバタフライ
星奈津美：◎春日部共栄（埼玉）
長谷川涼香：◎淑徳巣鴨（東京）
競泳女子100m/200m平泳ぎ・メドレーリレー
渡部香生子：◎武蔵野（東京）
競泳男子400m個人メドレー・200mバタフライ
瀬戸大也：◎埼玉栄（埼玉）
競泳男子200m/400m個人メドレー・200m自由形他
萩野公介：◎作新学院（栃木）
競泳女子400m個人メドレー
清水咲子：◎作新学院（栃木）
競泳女子100mバタフライ・メドレーリレー他
池江璃花子：◎淑徳巣鴨（東京）
競泳女子800mリレー
五十嵐千尋：◎日大藤沢（神奈川）
競泳男子400mリレー・メドレーリレー
中村克：◎武蔵野（東京）
競泳男子400mリレー
古賀淳也：◎春日部共栄（埼玉）
シンクロナイズドスイミング チーム
三井梨紗子：◎日本大学第一（東京）

[柔道]
男子６０kg級
高藤直寿：◎東海大付属相模
男子６６kg級
海老沼匡：●世田谷学園
男子７３kg級
大野将平：●世田谷学園
男子９０kg級
ベイカー茉秋：◎東海大付属浦安
男子１００kg級
羽賀龍之介：◎東海大付属相模
女子５２kg級
中村美里：◎渋谷教育学園渋谷
女子５７kg級
松本薫：◎藤村女子
女子６３kg級
田代未来：◎淑徳

[ウエイトリフティング]
女子４８kg級
三宅宏実：◎埼玉栄
女子５８kg級
安藤美希子：◎埼玉栄

[陸上]
男子5000m/10000m
大迫傑：◎佐久長聖
男子110m障害
矢沢航：◎法政大学第二
男子三段跳び
長谷川大悟：◎桐蔭学園
男子２０ｋｍ競歩
松永大介：●横浜
男子棒高跳び
澤野大地：◎成田高等学校付属

[体操]
男子団体
加藤凌平：◎埼玉栄
山室光史：◎埼玉栄
女子団体
村上茉愛：◎武蔵野東→◎明星
内山由綺：◎帝京
トランポリン男子個人
棟朝銀河：◎明治大学付属明治

[射撃]
女子クレー射撃トラップ
中山由起枝：◎埼玉栄
女子ピストル25m
佐藤明子：◎昭和学院

[レスリング]
男子５７kg級フリー
樋口黎：◎霞ヶ浦

[トライアスロン女子]
佐藤優香：◎開智日本橋

[馬術]
馬場馬術個人/団体
北井裕子：●聖セシリア

リオ五輪に出場した渡部香生子選手は武蔵野中学出身。大好きなスポーツに打ち込める設備と環境も私立中高一貫校の魅力です。